

図書館のホームページは
<http://lib.jichi.ac.jp>

目 次

エッセイ……………	1～2	和雑誌特集記事……………	3～6
最近のトピックス……………	2		

「違いの分かる男」

社会学准教授 渥 美 一 弥

読者諸氏は牛の群れを見て各牛の顔立ちや体つきの違いが分かるだろうか。通常牛に接する機会を持たない人々は牛がみな同じように見えてしまう。我々は接する機会がないものについては概念で視てしまい、その個性が認識できなのである。多くのヨーロッパ人にとって日本人と中国人や韓国人を見分けるのは困難である。同様に、多くの日本人にとってもフランス人とドイツ人やオランダ人を見分けるのは難しいし、アフリカ人を見てその人が東アフリカ地域出身か、西アフリカ地域出身か見分けるのは普通の日本人にとって通常不可能に近い。ところが、アフリカを専門とする日本人の人類学者たちはその外見でその人がどこの地域出身か見当がつくという。また、東アフリカの牧畜民たちにとっては、牛の個体差は人間の個体差に等しく、人々は各牛をきちんと見分けることができるという。

文化人類学徒としての私のフィールドはカナダである。だから私は、カナダ先住民を見るとだいたいどこの地域出身か分かるようになった。現在の私の調査地はカナダ西岸のバンクーバー島にある。この地域の人々は他の地域の先住民に比べ小柄である。内陸の先住民の中には身長2メートル近くある大男が沢山いるのにバンクーバー島の先住民は日本人とそれほど変わらない体型である。外見上の違いは分かるようになったが、実際に現地に行くと人々の生活の中に溶け込ん

でいかないと分からないことがたくさんある。

私が20年前にフィールドに入った時、先住民の「文化」はすでに消滅してしまったように感じた。1920年代からの「白人社会」への同化教育の「成果」で「白人的」生活様式は強力に広まっていた。そんなフィールドに何年も通い続けるうちに、その集団の中の人々と個人的に付き合うようになった。そこで、いろいろな「違い」を発見するようになった。たとえば、ある長老の家族は夜絶対に人の名前を大声で呼ばない。長老の説明によれば、「夜は精霊が耳を澄まして人々の話を聞いていて、そこで呼ばれた名前の人を精霊の世界に連れて行ってしまふ」とされている。そこで、名前を呼ばないことによってその子供を精霊の行為から守るのである。これはヨーロッパ人と接触以前にこの地域集団では当たり前とされていた。今でも、夜になると「どこにいるんだ、従兄弟!」「元気か、甥!」などと英語を使っている個人名を使う代わりに親族名称で呼ぶという「伝統的」な方法を用いる人々に会うことがある。

また、私は他の長老から次のような話を聞いたことがある。「ある男が妻を亡くし、友人や親族を呼んでポトラッチ（機会あるごとに行われる北米北西海岸先



住民の伝統的大宴会)を開いた。豪華な食事の後、男は彫刻家に作ってもらったばかりの長さ五メートルほどのカヌーを披露した。そのカヌーには(その地域の先住民にとっては馴染深い)ワタリガラスやカエルなどが彫っており、美しいペイントが施されていた。彼は、招かれた者たちにそのカヌーの中を見せた。その中には、船底から20センチくらいの厚さで一面に25セント硬貨が詰まっていた。そして、男は妻を亡くした悲しみを表現するために、硬貨がいっぱい詰まったその真新しいカヌーを人々の目の前で海に沈めた」。というものである。この話を私と一緒に聞いていた先住民の人々は口々に「いい話だ」と言っていた。「感動した」と言って涙ぐむ人もいた。

このポトラッチという大宴会は結婚や命名儀礼の時にも行われる。先住民の人がよく、「私はまだ十分なお金がないからインディアンの名前がない」と言うことがある。我々に日本人にとって名前を持つということが余りにも当たり前のことのように思われる。その「違い」はなんだろう。「『インディアンの名前』と『十分なお金』とはいったいどこで結びつくのか。部外者にはその結びつきがはっきりしない。そこでいろいろな人から話を聞く。そして、その理由は、長年にわたってお金をためてスピリットダンサーと呼ばれる踊り手を雇い命名儀礼を開き、尊敬する長老に名前を

つけてもらうということがあるからだということが分かってくる。命名儀礼を行うだけでもかなりの費用がかかるのに、儀礼のあとに盛大なポトラッチを開かなければならない。そうでないと正式な「インディアン名」とは見做されないのである。人々の承認を得るためには感動的なポトラッチを開かなければならない。それには十分な資金が必要なのである。この地域の先住民にとって「『インディアン名』を持つ」ということにはそのような背景が含まれている。

人類学者はとにかく「現場」に行く。現場に行っただけで自分がそれまで概念で見ていた「現実」と実際にある現実との違いを思い知らされて現場から帰ってくる。そして帰国した後はまず図書館に向かう。そこで様々な先人の知恵と小さな自分の知識の違いをそこで思い知る。人類学者はこの作業を繰り返すことによって地域集団による違いがだんだんと理解できるようになることを目指している。我々が現場と図書館を往来するのはそのためである。本に描かれているそれぞれの地域の違い、想像の世界と現実の世界の違い。各集団の違い。その集団内に生きる人々個々の違い。世の中は違いだらけだ。だから私もその「違いの分かる男」になったと言える自分を目指して現場と図書館との間をオロオロしながら行き来しているのである。

最近のトピックス

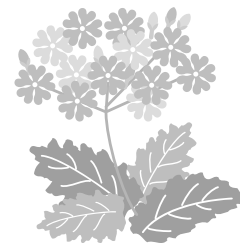
- 1月11日 日経 新万能細胞研究に33億円 国の支援策出そろそろ 創薬向け技術開発
- 14日 朝日 救急中核病院 174カ所減 2年で 搬送遅れの要因に 過酷な勤務 報酬見直せ
- 17日 下野 宇都宮バランス抜群 50万人以上都市調査 全国1位 経済豊かさ度など評価
- 読売 芥川賞 川上未映子さん「乳と卵」 直木賞 桜庭一樹さん「私の男」
- 25日 下野 出産受け入れ情報 一元管理 大学病院に連携センター 県、4月にも自治、獨協で開設
- 医療圏5分割 搬送要請振り分け
- 2月5日 下野 看護師不足解消へ 県、高校生に出前講座 新人の離職対策研修も 新年度事業
- 6日 朝日 県民格差、バブル並み 05年度所得調査 4年連続で拡大

A	アレルギー	特集Ⅱ アレルギー疾患の新規治療法の開発	臨免・アレルギー科	48 (6) 2007
B*	B P S D	さまざまな治療場面におけるBPSDへの対応と課題	老年精医誌	18 (12) 2007
D	大腸腫瘍	腹腔鏡下大腸癌手術の現状と問題点	癌の臨	53 (12) 2007
	伝染性感染症	感染症迅速診断キットの進歩と課題	小児臨	61 (2) 2008
	*ダブルバルーン内視鏡	特集Ⅰ ダブルバルーン内視鏡の手技の工夫と応用	消化器科	45 (6) 2007
F	フットケア	足病変に対する医療フットケア	看護技術	54 (2) 2008
	腹腔鏡法	腹腔鏡下大腸癌手術の現状と問題点	癌の臨	53 (12) 2007
	腹痛	頭痛・腹痛・胸痛 ～3つの痛みの緊急性を見極める～	臨研プラクティス	5 (1) 2008
	不眠症	臨床で遭遇する睡眠障害 「不眠」と「過眠」	薬局	59 (1) 2008
	吻合術	吻合法 -70年の変遷から学ぶこと	外科	70 (1) 2008
		安全な消化管器械吻合をめざして	臨外	63 (2) 2008
G	癌看護	がん化学療法の最新レジメンと看護の専門性	月刊ナーシング	28 (1) 2008
	外科用器具	新しい手術機器で手術が変わる	外科治療	98 (1) 2008
H	肺疾患－慢性閉塞性	COPDの憎悪に対する管理	日胸臨	67 (1) 2008
		治療可能な病態COPD -診療の実際と展望-	内科	101 (2) 2008
	肺腫瘍	肺癌の集学的治療2008年	胸部外科	61 (1) 2008
		肺癌 ますます増加する難治癌の診断と治療の進歩	Med Pract	25 (1) 2008
		肺癌分子標的療法 -最近の展開-	最新医	63 (1) 2008
	皮膚炎－アトピー性	アトピー性皮膚炎のスキンケアの実際	アレルギーの臨	28 (2) 2008
	皮膚疾患－顔面	眼囲の皮膚病 -炎症性-	皮膚診療	30 (1) 2008
	貧血－腎性	腎性貧血マネジメント	臨透析	24 (1) 2008
	泌尿器疾患	腎・尿路疾患 -ABCと新たな展開	小児診療	71 (2) 2008
	歩行	歩行	Brain Med	19 (4) 2007
I	インフルエンザ	小児看護に必要なインフルエンザの知識とケア	小児看護	31 (1) 2008
		インフルエンザ診療のブレイクスルー	臨検	52 (1) 2008
	インターベンショナルラジオグラフィ-	大動脈・末梢血管 インターベンションの現状	Heart View	12 (1) 2008
	移植	移植の病理 -最近の話題-	病理と臨	26 (1) 2008
J	腎臓疾患	CKD (慢性腎臓病) の食事療法	腎と透析	63 (6) 2007
		腎・尿路疾患 -ABCと新たな展開	小児診療	71 (2) 2008
	褥瘡性潰瘍	褥瘡ケア 変わったこと 新しいこと	エキスパートナース	24 (2) 2008
	静脈血栓症	静脈血栓塞栓症の予防ケア	看護技術	54 (1) 2008
	静脈内投与	採血・静脈注射のエビデンス	臨看	34 (1) 2008
	樹状細胞	特集Ⅰ 樹状細胞の機能と修飾因子	臨免・アレルギー科	48 (6) 2007
K	花粉症	花粉症	アレルギーの臨	28 (1) 2008
		花粉症の最新情報	日医師会誌	136 (10) 2008
	看護	イラスト+写真でわかる!	ハートナーシング	21 (1) 2008
		循環器看護のバッチリキーワード		

K	肝炎－慢性	慢性肝炎 肝がん撲滅をめざした治療法	治療学	42 (1) 2008
	肝炎－ウイルス性－ヒト	ウイルス性慢性肝炎	日内会誌	97 (1) 2008
	肝切除	肝切除－合理性の追求	手術	62 (1) 2008
	関節リウマチ	関節リウマチ検査・診療の新展開	Med Technol	36 (1) 2008
	緩和ケア	緩和医療－ペインクリニシヤンの取り組み－	ペインクリニック	29 (1) 2008
	川崎病	川崎病 －発見後40年の軌跡と今後の課題－	日臨	66 (2) 2008
	頸動脈狭窄	頸動脈狭窄をめぐる－診断から治療	心臓	40 (1) 2008
	血液疾患	血液疾患の免疫病態とその治療	血腫瘍	55 (6) 2007
	胸痛	頭痛・腹痛・胸痛 ～3つの痛みの緊急性を見極める～	臨研プラクティス	5 (1) 2008
	膠原病	リウマチ・膠原病のすべて	からだの科学	256 2008
	呼吸器疾患	呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患	呼吸と循環	56 (1) 2008
	呼吸困難	呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患	呼吸と循環	56 (1) 2008
	骨髄癒合不全	ライフステージからみた二分脊椎の子どもと家族の生活支援	小児看護	31 (2) 2008
	抗感染剤	臨床医が知っておくべき抗菌薬の使い方	診断と治療	96 (1) 2008
	高血圧	家庭血圧を利用した新しい高血圧個別診療	カレントセラピー	26 (2) 2008
		最新の高血圧治療の進歩	臨と研	85 (1) 2008
	抗精神剤	攻撃性・暴力と向精神薬をめぐる問題	臨精薬理	11 (2) 2008
	胸部X線診断	胸部の最新画像情報2008	臨放	53 (1) 2008
M	麻疹	2012年 麻疹排除に向けて	臨と微生物	35 (1) 2008
	免疫系疾患	T細胞研究新章 免疫疾患解明に向けた新たな展開	細胞工学	27 (2) 2008
	毛髪疾患	毛髪疾患の最前線－最新の概念・病態・治療	医のあゆみ	224 (4) 2008
N	内視鏡法	腰椎内視鏡手術の現状と問題点	整・災外	51 (1) 2008
	*内視鏡的粘膜下層剥離術	EMR, ESDの適応と手技 －内科医との連携のために－	消外	31 (1) 2008
	*内視鏡的粘膜切除術	EMR, ESDの適応と手技 －内科医との連携のために－	消外	31 (1) 2008
	認知症	さまざまな治療場面におけるBPSDへの対応と課題	老年精医誌	18 (12) 2007
	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群の新たな展開	産婦の実際	57 (1) 2008
	脳卒中	リハビリテーションにおける帰結研究	総合リハ	36 (1) 2008
		－脳卒中を中心に		
		脳卒中の初発症状を見逃さず、合併症を防ぐ	ナーシング・トゥデイ	23 (2) 2008
		一般病棟でのチェックポイント		
	ノーベル賞	ノーベル賞の医療への貢献	総合臨	57 (1) 2008
R	卵	卵子をめぐる最近の進歩	産婦治療	96 (1) 2008
	卵巣腫瘍	子宮がん・卵巣がん ～最新の治療と看護②～	がん看護	13 (1) 2008
	リハビリテーション	リハビリテーションにおける帰結研究	総合リハ	36 (1) 2008
		－脳卒中を中心に		
	リウマチ性疾患	リウマチ・膠原病のすべて	からだの科学	256 2008
	臨床検査	感染症の新しい検査法と最近のトピックス	小児診療	71 (1) 2008
S	作業療法	うつ病の作業療法最前線	作療ジャーナル	42 (2) 2008

採血	採血・静脈注射のエビデンス	臨看	34 (1) 2008
細菌感染症	感染症の新しい検査法と最近のトピックス	小児診療	71 (1) 2008
生活習慣病	生活習慣病対策における新しいアプローチ	臨スポーツ医	25 (2) 2008
* 性差医療	循環器疾患と性差医療	医と薬学	58 (6) 2007
精神障害	精神科薬物療法のここ10年の変化を検証する	臨精薬理	11 (1) 2008
	精神科薬物療法と専門薬剤師の役割	医薬ジャーナル	44 (1) 2008
色覚	色覚	眼科	50 (1) 2008
子宮筋腫	子宮筋腫の治療 ー大きく広がった選択の幅	臨婦産	62 (1) 2008
子宮内膜症	子宮内膜症の新しい考え方	産と婦	75 (1) 2008
子宮腫瘍	子宮がん・卵巣がん ー最新の治療と看護②ー	がん看護	13 (1) 2008
診断用試薬キット	感染症迅速診断キットの進歩と課題	小児臨	61 (2) 2008
* 心不全	急性心不全 ー治療の最前線ー	Heart View	12 (2) 2008
心筋梗塞	心原性ショックを合併した急性心筋梗塞症の病態と治療	ICUとCCU	31 (12) 2007
心臓血管疾患	イラスト+写真でわかる！ 循環器看護のバッチリキーワード	ハートナーシング	21 (1) 2008
	呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患	呼吸と循環	56 (1) 2008
	循環器疾患と性差医療	医と薬学	58 (6) 2007
	循環器疾患のリスク管理	呼吸と循環	56 (2) 2008
四肢奇形ー先天性	手足先天異常症の治療	形成外科	51 (1) 2008
* 脂質異常症	脂質異常症 ー新しいコンセプトのもとにー	カレントセラピー	26 (1) 2008
食道腫瘍	食道癌治療 ー最近の動向ー	日外会誌	109 (1) 2008
食事療法	CKD(慢性腎臓病)の食事療法	腎と透析	63 (6) 2007
消化器疾患	安全な消化管器械吻合をめざして	臨外	63 (2) 2008
小児	小児の輸液療法	小児臨	61 (1) 2008
小児看護	小児看護に必要なインフルエンザの知識とケア	小児看護	31 (1) 2008
周産期医学	周産期医療の成果と評価	周産期医	38 (1) 2008
腫瘍	がん化学療法の最新レジメンと看護の専門性	月刊ナーシング	28 (1) 2008
	がん早期発見術	治療	90 (1) 2008
	がん分子標的治療の最先端	医のあゆみ	224 (1) 2008
スキンケア	アトピー性皮膚炎のスキンケアの実際	アレルギーの臨	28 (2) 2008
足部疾患	足病変に対する医療フットケア	看護技術	54 (2) 2008
早期診断	がん早期発見術	治療	90 (1) 2008
	膵胆道早期がん診療	日消病会誌	105 (1) 2008
Steroids	研修医のためステロイドの使い方のコツ ー内用・注射・外用ー	臨研プラクティス	5 (2) 2008
* 膵星細胞	膵星細胞	肝・胆・膵	55 (6) 2007
水疱	水疱症	皮膚臨床	50 (1) 2008
睡眠	子どもの睡眠	小児内科	40 (1) 2008

S	睡眠過剰	臨床で遭遇する睡眠障害 「不眠」と「過眠」	薬局	59 (1) 2008
	膵臓腫瘍	膵胆道早期がん診療	日消病会誌	105 (1) 2008
T	代謝	メタボローム ー代謝研究の新潮流	実験医	26 (1) 2008
	胆道閉鎖症	胆道閉鎖症 ー診断・治療・研究の最先端	小児外科	40 (1) 2008
	胆道腫瘍	膵胆道早期がん診療	日消病会誌	105 (1) 2008
	糖尿病	これならできる！ 糖尿病患者へのケア	ナーシング・トゥデイ	23 (1) 2008
		糖尿病マネジメントup-to-date	内科	101 (1) 2008
		糖尿病と肝疾患	プラクティス	25 (1) 2008
	疼痛	痛みの精神医学	臨精医	37 (1) 2008
	T細胞	T細胞研究新章 免疫疾患解明に向けた新たな展開	細胞工学	27 (2) 2008
U	うつ病	うつ病の作業療法最前線	作療ジャーナル	42 (2) 2008
Y	薬物療法	がん化学療法の最新レジメンと看護の専門性	月刊ナーシング	28 (1) 2008
		精神科薬物療法のここ10年の変化を検証する	臨精薬理	11 (1) 2008
		精神科薬物療法と専門薬剤師の役割	医薬ジャーナル	44 (1) 2008
	腰椎	腰椎内視鏡手術の現状と問題点	整・災外	51 (1) 2008
	輸液	閉鎖式輸液ラインと三方活栓の “これだけは守りたい！”	エキスパートナーズ	24 (1) 2008
		小児の輸液療法	小児臨	61 (1) 2008
		実践！ 輸液・輸血ガイド	救急医	32 (1) 2008
	輸血	実践！ 輸液・輸血ガイド	救急医	32 (1) 2008
	誘発電位	誘発電位検査	臨脳波	50 (1) 2008
Z	前立腺腫瘍	限局性前立腺癌のgradingとstagingのupdate	泌外	21 (1) 2008
	喘息	気管支喘息のエビデンス	EBMジャーナル	9 (1) 2008
	頭痛	頭痛・腹痛・胸痛 ～3つの痛みの緊急性を見極める～	臨研プラクティス	5 (1) 2008



発行 自治医科大学図書館

☎329-0431 栃木県下野市薬師寺3311-160 ☎ダイヤルイン:0285(58)7059

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷